KIORITZ

取扱説明書

共立マルチチッパー

KC111W

⚠ 警告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

はじめに

このたびは、本製品をお求めいただきましてありがとうございます。ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。

- この取扱説明書には危険防止事項、取扱い注意事項、使いかた、保守点検について重大な内容を記載してありますので必ず守ってください。
- この取扱説明書は、お読みになった後、本機のそばに大切に保管され、いつでもご利用できるようにしておいてください。

■危険防止及び注記について

- 運転操作・給油・点検・整備に関連した事故の大部分は、安全上の基本的注意事項や危険予知を怠ることにより生じます。誤った運転操作、不適正な給油、点検・整備は大変危険です。危険防止事項や注意事項をよく読んで、事故が発生しないよう心がけてください。
  本書では、危険防止事項や注意事項は、次のようにマークで目につきやすいようにしています。

⚠危険防止

●――。

危険、警告、注意の各安全上の注意事項を記載しています。守らないと傷害事故を引き起こすことがあります。

注 注　　記

●――。

もし守らないと製品の故障や損傷につながることがあります。

- 当社機械には特に重要な危険事項に対し注意ラベルが貼付されています。使用に際しては充分に理解の上守ってください。
- 注意ラベルが見えなくなった場合やはがれた場合は貼りかえてください。

■もし、ご不明な点や不具合がありましたら

本書や本製品についてのご不明な点や、不具合あるいは万一故障したり調子の悪い時などがありましたら無理に使用せずご購入先またはお買い求めの販売店までお問い合わせください。その場合は必ず**製品型式、お買い求め年月、故障の様子**などをできるだけ詳しくお知らせ下さい。

〈もくじ〉

ページ

1．安全上のご注意……1～2

2．各部の名称とはたらき……3

3．作業操作……4～5

3－1 作業準備……4

3－2 作業……4～5

3－3 カッタ作業……6

3－4エンジン停止……6

4．組付……7

4－1 組付……7

5．各部の調節・操作……7～9

5－1 回転刃調節、交換……7

5－2 固定刃の交換……8

5－3 切断長の調節……8

5－4 カッタベルトの調節……9

5－5 排出口の調節……9

6．整備・点検・清掃……9～10

6－1 清掃……10

6－2 注油……10

6－3 ネジのゆるみ、締め増し……10

6－4 回転刃、固定刃の研磨……10

7．保　守……11

8．こんなトラブルが起ったら……11

9．仕　様……12

10．特　長……12

1 安全上のご注意 ⚠危険防止

●ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
●ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。
表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	誤った取り扱いをすると人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
⚠ 警告	誤った取り扱いをすると人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
⚠ 注意	誤った取り扱いをすると人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します。

⚠ 危　険

●**供給口・吐出口の内部に手を入れないこと。**
回転部に巻き込まれて傷害事故につながります。充分注意してください。
●**給油は換気の良い所で行い、くわえタバコや裸火照明はしないこと。**
燃料に引火する場合があり危険なので絶対しないでください。
●**むりな供給はしないこと。**
運転したまま供給物を引っ張ったり、押し込んだり、付着物を手で取ったりしないでください。回転部に巻き込まれると傷害事故につながります。
●**エンジンの熱い間は給油をしないこと。**
エンジンを停止し、完全に冷えてから給油をしてください。エンジンが熱い間はやけど、火災の原因となります。

⚠ 警　告

●**換気の悪い場所で作業しないこと。**
室内および換気の悪い場所での作業は排気ガスが充満し人体に有害です。風通しの良い所で作業してください。
●**燃料をタンクからこぼさないこと。**
燃料は規定以上入れないでキャップは確実に締めてください。火災の原因となります。又万一こぼれた時は、きれいにふきとってください。
●**エンジンの周囲にホコリ、ゴミを堆積させないこと。**
エンジンの周囲はいつもきれいにし、加熱による火災を防止してください。
●**エンジンの冷却ファンを山草、枝類、ワラ等で目詰まりさせないこと。**
オーバーヒートの原因となり火災が発生することになりますのでエンジンは、絶えず清掃してください。

⚠ 注　意

■走行時の安全

- **急発進しないこと。**
  急発進して衝突しないよう、周囲の安全を確認して低速で発進してください。
- **坂道や凹凸、カーブの多い道路では高速運転をしないこと。**
  転倒したりして大変危険です。ハンドルからも手を離さないでください。
- **後進は足元に注意し、後方を確認すること。**
  転倒したり、機械にはさまれたりしないように後方をよく確認し、低速で運転してください。
- **坂道ではサイドクラッチレバーを使わないこと。**
  サイドクラッチレバーを使った方の車輪がニュートラル状態になり逆旋回する場合があります。旋回はハンドルを振って行なってください。
- **トラックなどへの積み降ろし**
  平坦で安全な場所でトラックなどが移動しないように、エンジンを止めサイドブレーキ及び車輪止めをしてから行なってください。積込みは前進で、積み降しは後進でサイドクラッチレバーを使わず低速運転で行なってください。又搭載積込時点で必ずブレーキをかけてください。

■作業前の安全

- **カッタ作業は必ず平坦な場所で行なうこと。**
  やむなく傾斜地に置く場合は車輪に歯止めをしてください。
- **吐出口の方向は人や家畜に向けないこと。**
- **吐出口をのぞいたり近寄ったりしないこと。**
  切断物が飛んで傷害事故になることがあります。

■作業中の安全

- **走行しながらの作業はしないこと。**
  走行しながらの作業は危険ですので、絶対にしないでください。
- **停止中、作業中、機械から離れる時はブレーキをかけること。**
  機械は安定した場所に置きエンジンを停止し、ブレーキをかけ車輪をロックしてください。
- **運転中はカバー取付を厳守すること。**
  カバーを外して運転すると、回転部に体が触れたり、巻き込まれて傷害事故につながります。運転中カバーをはずさないでください。又、カバーが変形したりマークがはがれた時は、必ず交換してください。

■整備作業の安全

- **整備作業時は運転停止すること。**
  本機の点検・整備・掃除をするときには、必ずエンジンを停止してから行なってください。回転部に巻き込まれて傷害事故につながります。
- **刃物に注意すること。**
  刃物の点検や研磨・交換は厚手の革手袋を着用して行なってください。刃物に手が触れて傷害事故につながることがあります。

■その他安全上の基本的事項

- 本機は、子供・過労ぎみの人・使い方の知らない人・飲酒している人・妊娠している人・体の不自由な人は使用しないでください。
- 作業は作業しやすい袖裾のしまった作業服、すべらない靴、帽子、革手袋を着用して作業してください。
- 作業中は、適当な休憩をとるようにしてください。
- 二人以上で作業をするときは、安全のため合図を決め、声をかけ合って作業をしてください。
- 機械を他の人に貸すときは、取扱方法をよく説明し〝取扱説明書〟を読むように指導してください。

2 各部の名称とはたらき

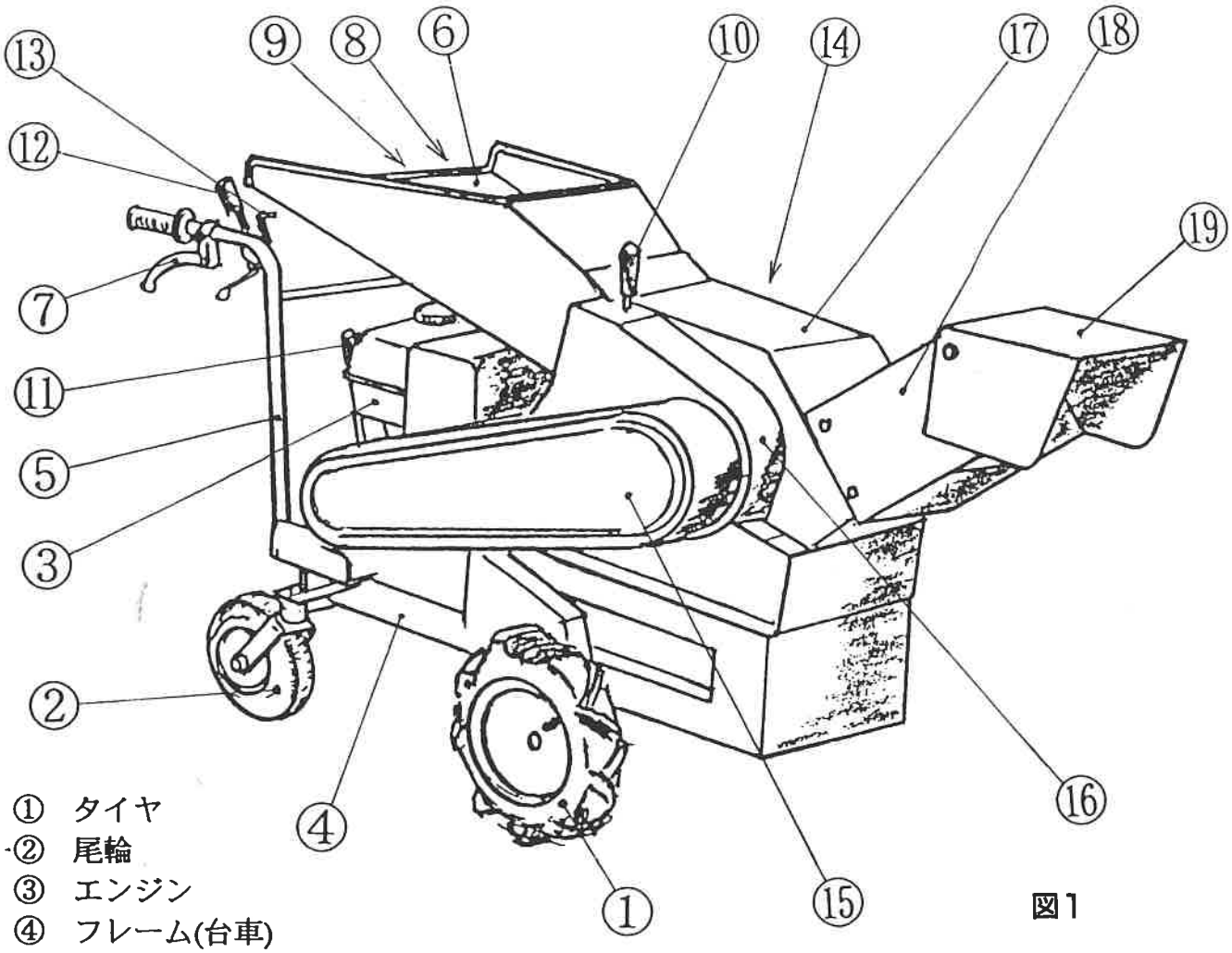


図1

① タイヤ
② 尾輪
③ エンジン
④ フレーム(台車)
⑤ ハンドル
⑥ 供給ホッパー ――― 材料の供給を行います。
⑦ ｻｲﾄﾞクラッチレバー(左右)―走行時に握ると、握った側へ旋回します。
⑧ スロットルレバー ――― エンジンの回転数を調整します。
⑨ 作業クラッチレバー ――― 「運転」にするとカッター部へ動力を伝達します。
(⑩「入」の時)
⑩ カッタークラッチレバー ―「入」にすると材料供給ローラが回転可能になります。
⑪ 変速レバー ――― 「前進」「後進」の方向を切り換えます。
⑫ 走行クラッチレバー ――― 走行用の動力伝達レバーです。変速レバーを入れた上で、レバーを「走行」にすると車体が動きます。
⑬ ブレーキレバー ――― レバーを「ON」側にすると、車体にブレーキがかかります。この状態で走行クラッチレバーを入れますと、走行状態になると同時にブレーキも解除されます。
⑭ ギャカバー ――― 安全用のカバーで中にギャスプロッケトがあります。
⑮ ベルトカバー ――― 安全用のカバーで中にベルト、プーリがあります。
⑯ 減速プーリカバー ――― 安全用のカバーで中にベルト、プーリがあります。
⑰ 上部ケーシング ――― 中に回転刃があります。
⑱ 排出ダクト ――― 切断物の排出距離(角度)を調節します。
⑲ 排出口調整板 ―┘

3 運転操作

3－1 運転準備（給油）

⚠ 危険防止

- エンジンを停止し、完全に冷えてから注油をしてください。
- くわえタバコや裸火照明は燃料に引火する場合があり危険なのでしないでください。
- 燃料は規定以上入れないでキャップは確実に締めてください。万一こぼれた場合はきれいにふきとってください。

注 注　記

- エンジンの取扱説明書をよくお読みください。

① 走行ミッションには、出荷時潤滑油を入れてあります。

オイル交換をするときは、ギャオイル SAE#90 を注入してください。

(油量 0.8 ℓ＊交換は年 1 回)

②エンジンのクランクケース内には、潤滑油が入っていません。

エンジンオイルを所定量給油してください。

(油量は、エンジンの取扱説明書で確認してください。)

③ 燃料（無鉛ガソリン）を給油してください。

④ エンジンのエアークリーナがオイルバス式の場合

オイルバスには、オイルが入っていません。

エンジンオイルを所定量給油してください。

(オイルに砂塵等が付着しすぎ清浄効率が低下すると、トラブルの原因となりますので、オイルは頻繁に交換するよう心がけてください。)

3－2 運転

⚠ 危険防止

- 周囲の安全を確認し、低速で発進してください。
- 坂道ではサイドクラッチレバーを使わないで旋回ハンドルを振って行ってください。
- ベルトカバーやボディカバーを外したまま運転をしないでください。
- 走行しながらの作業はしないでください。

注 注　記

- 走行クラッチレバーは静かに入れてください。急激なクラッチ操作は事故やエンストの原因となります。
- エンジンの取扱説明書をよくお読みください。

(1) エンジンを始動する前に

①変速レバー …… 「中立」（中央）にします。**図2**

②走行クラッチレバー …… 「停止」（後方に引いた状態）にします。**図3**

③作業クラッチレバー …… 「停止」（後方に引いた状態）にします。**図4**

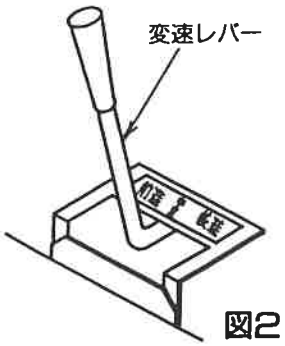


図2

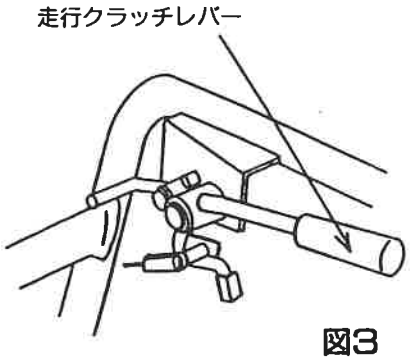


図3

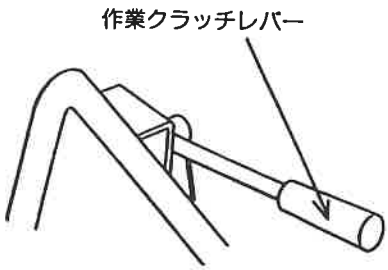


図4

(2) エンジンの始動

①燃料コック …… 「開」にします。

②エンジンスイッチ … 「ON」にします。

③チョーク …… 「閉」にします。

④スロットルレバー … 内側に少し寄せます。**図5**

⑤リコイルハンドル … 素早く引いてください。

スロットルレバー

ハンドル左上についており、レバーを内側、高の方向へ回すとエンジンの回転が上ります。エンジン始動時にはレバーを内側に少し寄せてください。



図5

(3) 運転（起動したら）

①チョークレバーを徐々に開きます。

②しばらく暖気運転を行なってください。

③スロットルレバーを適正回転に合わせます。

(4) 走行

①変速レバーを前進、または後進に倒します。

②スロットルレバーをやや低速気味にします。

③走行クラッチレバーーを前方に徐々に倒します。

④スロットルレバーを所定の速度に操作します。

⑤走行中の方向変換は、ハンドルの左右に装備されたサイドクラッチレバーを握れば、操作した方向に向きを変えます。

(5) 走行停止

①スロットルレバー …… 徐々に低速にします。

②走行クラッチレバー …… 「停止」手前に引いた状態にします。

又は、補助レバーを親指でおし下げます。（ハンドルを握ったままでクラッチを切ることができます。）

③変則レバー …… 「中立」（中央）にします。

④ブレーキ レバー …… 必要に応じてブレーキレバーを「ON」（手前に引く）にします。

3−3 カッタ作業

⚠危険防止

- 供給口・吐出口の内部に手を入れないでください。カッタ・供給ローラに接触すると傷害事故につながります。
- 運転したまま供給物を引っ張ったり押し込んだり付着物を手で取ったりすることはしないでください。回転部に巻き込まれます。
- 室内および換気の悪い場所での作業は排気ガスが充満するためしないでください。
- 作業は必ず平坦な場所で行ってください。
- 排出口の方向は人や動物に向けないでください。又、排出口をのぞいたり近寄ったりしないでください。切断物が飛んで危険です。

注 注　記

- 傾斜地に停車するときや、作業中は走行クラッチレバーを「停止」にしてください。
- 供給物の中に**石・金属・ビニール製品**等が混入していると思わぬ事故や機体の破損を招く恐れがありますので十分注意して下さい。
- エンジンが高回転のときにカッタクラッチレバーを急に「入」にしたり、スロットルレバーの操作を急激に行うとベルト等が損傷することがありますので出来るだけ避けてください。
- 内部の切りくず、軸部の巻き付きなどを取り除いてください。
- 主軸を手で回転したとき、回転刃が固定刃にあたらないか点検してください。異常がありましたら、刃のスキマ調節を行ってください。
- 作業中、カッタクラッチレバーを「切」にする場合は、非常時をのぞいてカッタに供給物がなくなってからにしてください。
- 供給物は均一に丁寧に入れてください。
- **刃物の刃先に丸味がでてきて切れなくなったら、早目に調節・研磨・交換してください。**
- 緊急時にはエンジンを停止してください。

①スロットルレバーを除々に高速にし、所定の回転数にしてください。

②作業クラッチレバーを徐々に「運転」前方に倒します。

③カッタクラッチレバーを「入」の位置にセットしてください。

材料を供給ホッパより供給してください。

3−4　エンジン停止

①スロットルレバー …… 徐々に低速にします。

②エンジンスイッチ …… 「OFF」にします。

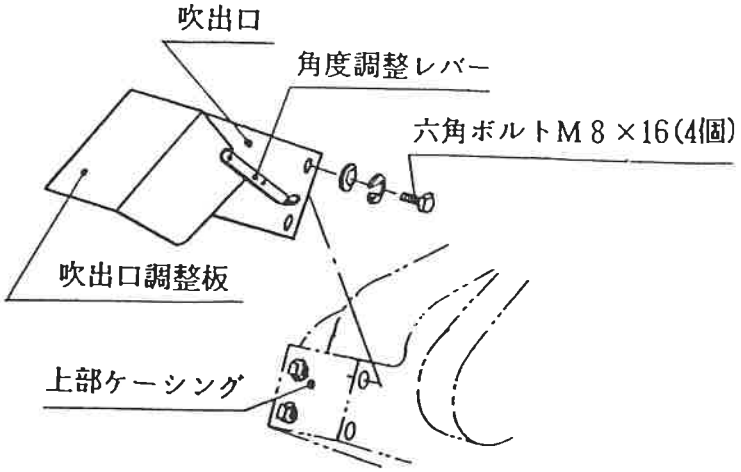
③エンジン燃料コック …… 「閉」にします。

4 組　付

4－1　組付

ご使用前に、吹出口を図-6の要領で組付けて下さい。

①上部ケーシングの排出口側に排出口を六角ボルトM８×16，バネ座金，平座金で４カ所取り付けてください。
角度調整レバーで無段階に吹出角度を調整できます。



図－6

5 各部の調節・操作

5－1　回転刃の調節、交換

⚠危険防止

- 必ず、エンジンを停止してからカバーを外してください。
- 刃物の点検や研磨・交換は厚手の革手袋を着用して行てください。
- 刃物の研磨時には安全のため保護メガネを着用してください。

注 注　　記

- 刃物の交換・研磨時は、必ず刃のすきま調節をしてネジを確実に締めてください。

(1)回転刃と固定刃の 隙間調節

回転刃と固定刃の隙間調節は下記の順で行なってください。

調節順序（図7参照）

イ）左右のベアリングケースの上部ボルトを少し弛める。(内側の小ベアリングケースが少し回る程度)

ロ）調節レバーを固定刃側に倒せば、回転刃と固定刃の隙間が狭く、逆側に倒せば広くなる。この隙間が0.2～0.3㎜になる様に調節する。

ハ）元通りにボルトを締付ける。

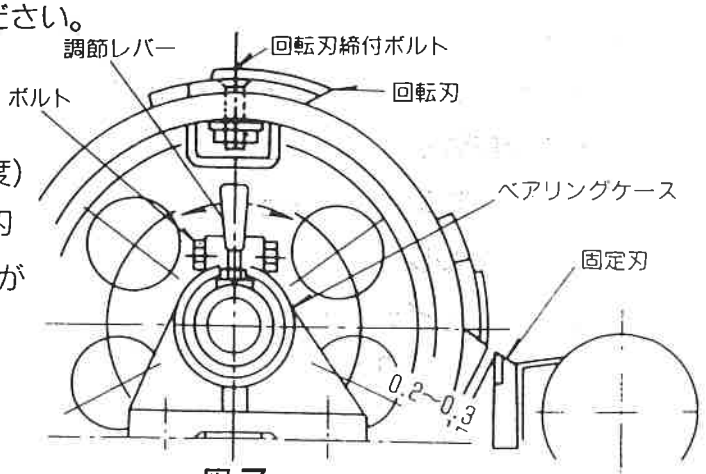


図７

⑵回転刃の交換

研磨をくり返し、刃に鋼の部分がなくなったら回転刃 を交換してください。

イ）刃を固定している左右の回転刃締付ボルトをゆる めて、刃を交換してください。

(回転方向に刃先がくるようにしてください。)

ロ）交換後締付ボルトをしめつけていくと、刃は自動 的に位置が決ります。
ロックナットで確実に固定 してください。

ハ）交換後は、(1)の要領で刃の隙間調節を必ず行なってください。

5−2 固定刃の交換（図８参照）

①ベルトカバーを外す。
②作業ベルトを外しロックナットを弛め主軸プーリを外す。
③減速プーリカバーを外す。
④ギヤーカバーを外す。
⑤ケーシングを固定している押さえ板を外しケーシングを引き上げる。
⑥固定刃補強金具を固定しているナットを弛める。
⑦固定刃を固定している六角ボルトを抜 き取る。
⑧ベルトカバー側からギヤーカバー側へ 固定刃を押し出し抜き取る。
⑨固定刃交換。
⑩元通りにボルトを締付る。外したボルト、弛めたナット等は確実 に締付てください。

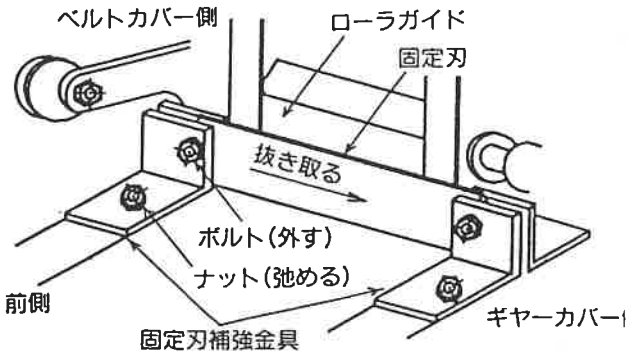


図8

5−3 切断長の調節

切断長さは表に示す様に歯車交換 により４段階に調整できます。但し、供給材料の質や状況により異なります。

セット ＼ 切断長 mm	90	50	16	9
上 軸 歯 車	12	18	32	38
下 軸 歯 車	38	32	18	12

(1) 歯車の交換（図９参照）

①ギヤカバーを外します。
②Rピン、座金を取り外しギヤーを交換してください。
③交換が終りましたら、カバーを確実に取り付けてください。

歯車交換

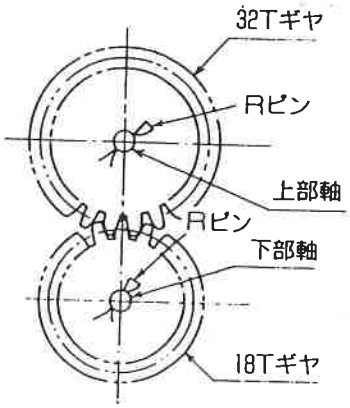


図9

5－4 カッタベルトの調節

作業中ベルトがスリップしない様にベルトの張りを調節してください。
必要以上にベルトを張るとベルトの寿命を損うので注意してください。

調節は次の要領で行なってください。(図10参照)

①ハンドルを［入］にセットしてください。
②調節ボルトをゆるめてください。
③アーム(A)にてベルトの張りを加減してください。
④調節ボルトを締付けてください。
⑤ブレーキピンをゆるめてください。
⑥ハンドルを［切］にセットしてください。
⑦ブレーキピンの頭部がVベルトの背面を押圧する位置でブレーキピンを締付けてください。

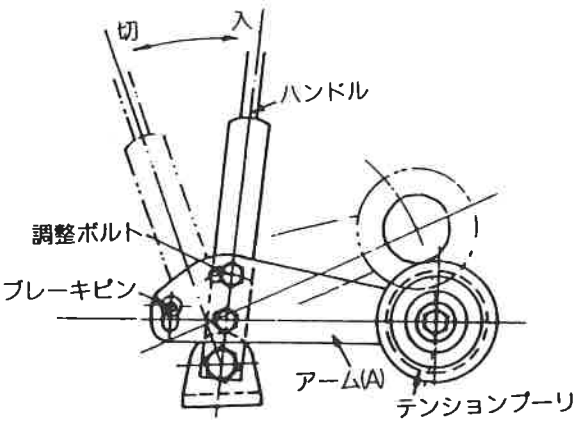


図10

5－5 排出口の調節

切断物の放出距離の調節は、先端の吹出口調整板の角度で調節してください。
(6ページ)

エンジン

注 注　記

- エンジンについての取り扱い、調節、点検、整備等の具体的な内容は、エンジン取扱説明書に従ってください。

ハンドル部に装備されたスロットルレバーを、内側に操作すればエンジン回転が高速となり、外側に操作すれば低速となります。

6 整備・点検・清掃

⚠危険防止

- 点検、整備、清掃する場合は、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- 点検、整備、清掃終了後、安全のためカバー類は元のように確実に取り付けてください。
- エンジン及びエンジンの周囲はいつもきれいにして加熱による火災を防止してください。
- エンジンの冷却ファンを山草、枝類、ワラ等で目詰まりさせるとオーバーヒートの原因となりますので、エンジンは絶えず清掃してください。

6－1 清掃

作業が終りましたら運転を停止し、機体に散在した粉砕片、ゴミ、チリをきれいに取り除いてください。
特にエンジン周辺及びエアクリーナは、必ず点検、清掃してください。

6－2 注油

次の箇所へ、粉砕屑、ホコリ等をきれいに清掃して、定期的に注油をして下さい。

①ローラチェン（供給ローラ伝動）
②オイルキャップへの注油 **図11**

- ギヤーカバー及び減速プーリカバの透明窓蓋を上方に抜き取り内部にある（黄色の）オイルキャップに注油を行なってください。
- 注油が終りましたら、透明窓蓋を差し込んでください。

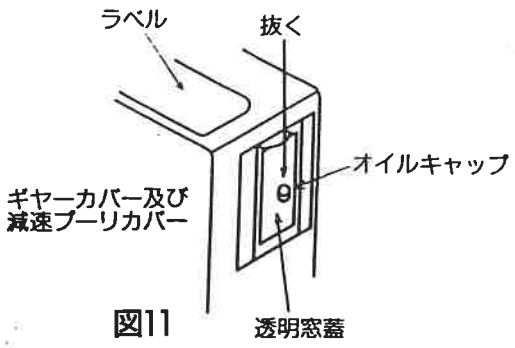


図11

6－3 ねじのゆるみ点検、締め増し

①上部ケーシング、固定刃、回転刃、
②エンジン、エンジンベース、ハンドル、供給台、その他

6－4 回転刃、固定刃の研磨

刃が切れなくなったら、研磨をしてください。

- 材料、状況により大きく異なりますが、作業10～30時間を目安としてください。
- 刃の点検、調節、交換をする場合は、厚手の革手袋を着用して行ってください。
- 研磨については、お買上げの販売店にご相談ください。

7 保　守

使用後は次の要領で手入れをしてください。

①. 切断物の残りを取去り各部の掃除を行なってください。

②. ボルト・ナット類の弛み等を点検し調節の必要があれば行なってください。

③. 刃の摩耗がある時は研磨してください。

④. 注油箇所には汚れを取除き必ず注油してください。

⑤. カッタクラッチレバーは（切）の位置にしてください。

⑥. 長期間保管する時は、回転刃・固定刃・ワイヤーの露出部にグリスを塗布して防錆してください。

⑦. 保管の場合シート等で機械を覆い、乾燥した屋内に保管してください。

8 こんなトラブルが起ったら

⚠ 危険防止

●エンジンを停止してから点検してください。

現　　象	原　　因	処　　置
回転刃が回らない	作業ベルトがはずれている。	かけなおす。
	回転刃・固定刃間に供給物がかみこんでいる。	供給物を取り除く。
作業中エンジンが停止する	供給物の入れすぎ。	供給物を取り除き、再度エンジンを始動し、作業は適量つづ供給する。
	燃料パイプのつまり、又はふさがり。	エンジンの点検・清掃。
	燃料が無くなっている。	燃料を補給する。
切れ味が悪い	回転刃の摩耗。	刃の研磨
	固定刃の摩耗。	刃の研磨
	回転刃・固定刃のスキマが大きい。	刃のスキマ調節
吐出口が詰まる	吐出口の中へ切断物が堆積。	吐出口の調整板の角度を変える。
	回転数が少ない。	スロットレバーで回転数を上げる。
異音がする	油が切れている。	注油する。

9 仕 様

	型　　式	KC111W
機体寸法	全　　長（㎜）	2,020
	全　　幅（㎜）	660
	全　　高（㎜）	1,000
	乾燥重量（kg）	181
エンジン	銘柄・型式 出　力（ps/rpm）	ホンダGX340 常用8.0/1,800～最大11.0/1,800
破砕部	用　　途	枝，竹，草
	方　　式	シリンダーはね出し式
	供給ロール幅（㎜）	200
	切断寸法切換機構	ギャー交換
	切断寸法（㎜）	9，16，50，90
	刃　　数	2枚
	切断能力（㎥/h）	6以上
	排出ダクト（㎜）	200×300
	最大はね出し能力（m）	8

10 特 長

1．どんな場所にも搬入でき、移動も簡単な自走タイプです。
2．左右回転式供給ホッパーの採用で、燃料の供給、エアークリーナの清掃等、
　エンジンまわりのメンテが容易に出来ます。
3．走行性のよい前、後進ミッションと、湿地走行にも有利なラグ付タイヤを装備しました。
4．強力な馬力で直径６０mm前後の枝も処理できます。
　ワラ、野草、イタリアン、ソルゴー、トウモロコシ等の飼料のほか、芋づる、みかん、
5．梨、リンゴ、街路樹等の剪定枝のような残幹処理もできます。
6．回転刃と受刃は特殊刃物鋼を使用し、耐久性を考慮してあります。
7．供給ローラは、独特な鬼ロールを使用していますので送り込みは抜群です。
8．走行クラッチは補助レバーの採用で、ハンドルを握ったまま切ることができます。